

令和5年度（2023）

年間授業計画

第 1 学年



東京都立西国高等学校附属中学校

1. 学年学習到達目標

- ① 目的や意図に応じて様々な文章を読み、内容や要旨を的確にとらえられるようにするとともに、読書を通して物の見方や考え方を広げようとする態度を養う。

② 目的や意図に応じて適切に構成しながら的確な表現で書けるようにするとともに、自分が考えたことや感じたことを文章等で表現しようとする態度を養う。

③ 目的や意図に応じて、日常生活や社会に関わること等について聞き手の立場になって工夫して話す力や、話し手の意図を考えながら聞く力、話題や方向をとらえて話し合う力を身につけるとともに、話したり聞いたりして自分の考えを更に高めようとする態度を養う。

2. 授業の進め方（授業形態等）

(1)週 4 時間 (2)年間総授業数 140 時間 (3)授業形態 一斉・TT（講義・演習）

3. 教科書・副教材

教科書	国語 1（光村図書） 中学書写（教育出版）
副教材	国語便覧 東京都版（浜島書店）、すらすら基本文法（浜島書店）、常用漢字の1・2トライ（浜島書店）、標準新演習国語中 1（エディケーショナルネットワーク）

4. 学習計画

期	月	指導单元名	学習内容	時数	備考
1 学 期	4	・シンシュン ・ダイコンは大きな根？ ・詩の世界 ・自己紹介をしよう ・身近な人へのお願いをしよう ・いろは歌 ・書写（硬筆）	・文学的文章の読解 ・説明的文章の読解 ・詩の鑑賞 ・スピーチ ・プレゼンテーション ・文学的文章の読解 ・韻文音読、朗読	5 2 (内 書写 6)	〔通年〕 ・小倉百人一首 ・読書レポート ・漢字 ・語句 ・読解演習 ・口語文法
	5				
	6				
	7				
2 学 期	9	・星の花が降るころに ・大人になれなかった弟たちに… ・「言葉」を持つ鳥、シジュウカラ ・竹取物語 ・今に生きる言葉 ・話題や方向を捉えて話し合おう ・課題を解決するために話し合おう ・書写(毛筆)	・文学的文章の読解 ・説明的文章の読解 ・古典文学の読解 ・漢文訓読 ・ディスカッション ・ディスカッション・プレゼンテーション	5 8 (内 書写 7)	
	10				
	11				
	12				
3 学 期	1	・「不便」の価値を見つめ直す ・少年の日の思い出 ・根拠を明確にして伝えよう ・書写（毛筆）	・説明的文章の読解 ・文学的文章の読解 ・ディベート	3 0 (内 書写 7)	
	2				
	3				

5. 評価について

それぞれの観点については、次の内容を考慮して評価する。

- 知識・技能 …定期考査、漢字、文法、語彙、書写等
- 思考・判断・表現 …定期考査、スピーチ、発表、ノート、作文、レポート等
- 主体的に学習に取り組む態度 …日ごろの授業への取り組み、提出物、小テスト等

- 1 学年学習到達目標
- ①世界や日本の姿をとらえ、身近な地域や都道府県、世界の国々を調べる力を養う。
- ②中国大陸などの影響を受けながら、日本の古代・中世の社会が形成されていった過程を考察する。
- ③資料の収集や活用のしかた・新聞やインターネットの活用法、プレゼンテーションの方法などを学ぶ。

2 授業の進め方（授業形態等）

(1)週4時間 (2)年間総授業数 140時間 (3)授業形態 1クラス40人授業

3 教科書・副教材

教科書	「新しい社会地理 東京書籍」「中学校社会科地図 帝国書院」「中学歴史 日本と世界 山川出版社」
副教材	「アドバンス中学地理資料 帝国書院」「学び考える歴史（東京都版）浜島書店」

4 学習計画 ※発展的内容（ほとんどの指導内容中に少しずつ発展的な内容を盛りこみます）

期	月	指導単元名	指導内容	時数	備考（育みたい力）
1学期	4	【地理的分野】 世界と日本の姿	・私たちがくらす地球をとらえる ・世界の国を知る ・緯度・経度のしくみを知る ・地球儀や地図を活用する ・暑い地域に生きる人々 ・寒い地域に生きる人々 ・高地に生きる人々 ・海に生きる人々 ・乾燥地域に生きる人々 ・宗教とともに生きる人々 ・大都市に生きる人々 ・経済発展の中に生きる人々 ・日本の姿を知ろう ・日本の地図を活用しよう ・地域調査ー東京都の〇〇について調べよう	39	・地球儀や地図の活用の仕方 ・統計資料から必要な情報を読み取る力
	5	世界のさまざまな地域			・2地点間の時差を求める ・新聞から必要な情報を得る力
	6	【歴史的分野】 世界の諸文明		13	・歴史資料を活用する力
	7	日本文化のあけぼの	・人類の誕生と進化・古代文明の始まり・地中海文明の発展・中国文明と東アジア・宗教の起こり・縄文文化の誕生・稲作の広まりと弥生文化・古墳と大和政権		
2学期	9	【地理的分野】 日本のさまざまな地域	・自然環境からみた日本 ・人口からみた日本 ・産業からみた日本 ・資源・環境からみた日本 ・結びつきからみた日本 ・北海道のようす ・東北地方のようす ・関東地方のようす	32	・地図や統計、グラフなどから地理的事象の特徴を読み取る力
	10	日本の地域的特色と地域区分			
	11	【歴史的分野】 律令国家の形成	・聖徳太子の政治改革と飛鳥の文化・律令国家への道 ・律令国家の仕組みと人々の暮らし・平城京と天平文化 ・平安京と弘仁・貞観文化・摂関政治と地方社会 ・東アジアと国風文化・荘園の成立と武士の登場・院政と武士の成長	28	・博物館や郷土資料館の利用 ・地域の歴史の調べ方
	12	貴族政治と国風文化	・日本の地域の歴史や文化について調べてみよう		
3学期	1	【地理的分野】 世界の諸地域	・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州 ・鎌倉幕府の成立と執権政治・武士の日常・民衆の生活・鎌倉時代の文化・モンゴルの襲来と鎌倉幕府への失望・南北朝の動乱と室町幕府の成立・東アジアと日本の関係・産業・流通の発達と都市・農村の変化・応仁の乱と戦国大名・室町時代の文化 ・日本や世界各地でおこっている様々な問題を考えよう	14	・地図や統計、グラフなどから地理的事象の特徴を読み取る力
	2	【歴史的分野】 中世世界の成立 武家社会の成長		14	・自分の考えをまとめ、相手にわかりやすく伝える力
	3				

※学校設定教科「人と社会」の時間数と内容を含んでいます。

5 評価について それぞれの観点について次の内容を考慮して評価する。

主体的に学習に取り組む態度…日ごろの授業への取り組み、提出物、ノート等

思考・判断・表現…定期考査、発表、ノート、課題等 知識・技能…定期考査、小テスト、課題等

1. 学年学習到達目標

- 1 数を正の数から負の数まで広げ、数の概念について理解を深める。
- 2 文字を用いることの意義、方程式・不等式の意味を理解するとともに、数量などの関係や法則を一般的かつ簡潔に表現・処理できるようにする。
- 3 平面図形や空間図形についての観察等を通して、図形に対する直感的な見方や考え方を深め、論理的に考察する基礎を培う。
- 4 具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例の見方や考え方を深め、数量の関係を表現し考察する基礎を培う。
- 5 目的に応じて資料を収集、整理し、代表値やちらばりに着目して、資料の傾向を読み取ることができるようにする。

2. 授業の進め方（授業形態等）

(1) 週 4 時間 (2) 年間総授業数 1 4 0 時間 (3) 授業形態 1学級2分割習熟度別授業(TTの場合あり)

3. 教科書・副教材

教科書	中学校数学 1（学校図書）
副教材	体系数学 1 代数編・幾何編(数研出版), 体系問題集数学1発展 完成ノート（数研出版）

4. 学習計画

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考
1	4	正の数と負の数	1 正の数と負の数 2 加法と減法 3 乗法と除法 4 四則の混じった計算	22	* 予習は教科書または体系数学 1 の例と例題を読んで練習をやってみる * 復習はプリントと体系数学1問題集完成ノートを活用する * 毎授業、定着確認の小テストを行う
	5		式の計算	1 文字式 2 多項式の計算	
	6	方程式		1 方程式とその解 2 1 次方程式の解き方	
	7				
	2	8	方程式	3 1 次方程式の利用	
9					
10		比例と反比例	1 変化と関数 2 比例とそのグラフ 3 反比例とそのグラフ 4 比例・反比例の利用	24	10月 中間考査（完成ノート点検） 授業ノート点検第 2 回 数学ファイル点検第 2 回
			11	平面図形	1 平面図形の基礎 2 対称な図形 3 図形の移動 4 作図 5 面積と長さ
12		空間図形			1 いろいろな立体 2 空間における平面と直線 3 立体のいろいろな見方
			3	1 空間図形	4 立体の表面積と体積
2		資料の整理と活用		1 資料の整理 2 代表値とちらばり 3 累積度数と累積相対度数	10
	3			不等式	1 不等式の性質 2 不等式の解き方 3 不等式の利用 4 連立不等式
計				140	

5. 評価について(材料・場面・頻度等)

3つの観点「主体的に学習に取り組む態度」「思考・判断・表現」「知識・技能」を3段階で評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は、授業への取り組みの様子、宿題や課題などの状況で評価する。他の観点は定期考査、数学コンテスト、小テストなどの成績を中心に評価する。3つの観点の評価を総合して5段階の評定を出す。

1. 学年学習到達目標

- ① 地表や地殻・上部マントルにおける現象を身近に感じながら科学的に理解できること。
- ② 地震や気象の観測、火山や岩石鉱物および地形や地質の観察に必要な技量と科学的な態度を身につけること。
- ③ 時間スケールと空間スケールの大きな自然現象を理解することができること。
- ④ 自然現象がもたらす恵みと災害を科学的に理解して、自分の生活と防災・減災について考えることができること。

2. 授業の進め方（授業形態等）

(1)週 1時間 (2)年間総授業数 35 時間 (3)授業形態 地学教室での一斉授業

3. 教科書・副教材

教科書	新しい科学1（東京書籍）
副教材	最新理科便覧東京都版（浜島書店） 新課程フォトサイエンス地学図説（数研出版）

4. 学習計画 ※発展的内容

☆実習・実験・観察・観測（主なもの）

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考
1 学期	4	大地の変化	○火山の噴火と火山の形 ☆ムニムニ実験	3	観察・実験、演 示実験等により 、実物に多く触 れて実感を伴う 理解を促す。
		火をふく大地	○火山噴出物	4	
	5	火山の姿からわかること 火山がうみ出す物	造岩鉱物 ☆火山灰の洗い出しと観察 ※二酸化ケイ素		
	6	火山の活動と火成岩 火山とともにくらす	○深成岩と火山岩 岩石組織 ○火成岩の観察と※分類	3 3	
2 学期	7		※偏光 ☆火成岩の観察（スケッチ）		
	9	身のまわりの現象 光の世界 音の世界	○光や音の進み方 ○振動	4	
	10	力の世界 大地の変化	○力と圧力		
	11	動き続ける大地	○地震計の記録と地震動	6	
3 学期	12	地震のゆれの伝わり方 地震が起こるところ 地震に備えるために 地層から読みとる大地の変化 地層のつくりとはたらき	P波とS波 震度とマグニチュード 震源の決定 断層と力 ☆地震波の読み取り（パソコン） ○プレートテクトニクス ※大陸移動説 ※関東地方のテクトニクス ○風化・浸食・運搬・堆積 流水の作用 河川と沿岸堆積物 ☆箱庭水路実験	3 2	地震波の生デー タをもとにパソ コン実習を行い 、探究に必要な 情報リテラシー も身につけさせ る。 細かい知識より しっかりとした 概念の形成を目 指す。
	1	堆積岩 地層や化石からわかること	○堆積岩 ☆堆積岩の観察	2	
	2	大地の変動	○地質構造 ※地層の対比 ☆ボーリング資料の観察	2	
	3	身近な大地の歴史	○示準化石と示相化石 ☆化石の観察（スケッチ） ○地球の歴史	1 2	

5. 評価について（材料・場面・頻度等）

定期考査結果、授業（発言、実習・観察、発表）中の態度、実習プリントやレポート課題の成果、ノートやプリント等の記入状況などにより随時評価し、それらを総合的に評価する。

1. 学年学習到達目標

- ①自然科学に対する興味・関心を高め、観察・実験の基本的操作を身につける。
- ②身近な生物の観察を行い、共通点や相違点があることを見いだして、生物の体の基本的つくりを理解する。その特徴に基づいて生物が分類できることを理解する。
- ③身のまわりの物質についての観察・実験を通して、固体・液体・気体の性質、物質の状態変化について日常生活と関連づけて理解するとともに、物質に対する興味・関心を高める。

2. 授業の進め方（授業形態等）

- (1) 週 2時間 (2) 年間総授業数 70時間 (3) 授業形態 一斉

3. 教科書・副教材

教科書	新しい科学1 東京書籍
副教材	進展理科 生物編、化学編 文理

4. 学習計画

期	月	指導題材名	学習内容	時数	備考
1 学期	4	生物の観察と 分類のしかた	・ルーペや実体顕微鏡の使い方／スケッチとレポート の書き方／・光学顕微鏡の使い方	6	実験・ 観察を 基本と する。
	5	植物の観察	・身近な植物の分類／果実を作る花のつくり ／裸子植物と被子植物／種子を作らない植物 ／さまざまな植物の分類	7	
	6	動物の観察	・身近な動物の分類／セキツイ動物／無セキツイ動物 ／動物の分類	7	
	7	生物と細胞	・植物の細胞／動物の細胞	6	
2 学期	9	身のまわりの物質とその性 質	・金属と非金属との区別／プラスチック／金属どうしの区別 ／密度／メスシリンダー、ガスバーナー、てんびんの使い方 ／白い粉状物質の区別／有機物・無機物／気体の製法と 性質	1 5	基本的 な実験 操作の 習得
	10	気体の性質			
	11	水溶液の性質	・物質が水に溶けるようす／水溶液の調べ方／ろ過の仕方 ／濃度／溶解度と再結晶	1 5	
	12				
3 学期	1	物質の姿と状態変化	・物質の状態変化／物質の状態変化と体積、質量の変化 ／物質の状態変化と温度変化／融点・沸点／エタノールと 水の混合物の蒸留	1 4	
	2				
	3				

5. 評価について（材料・場面・頻度等）

- ①実験実習レポート・提出物 ②定期試験 ③普段の授業態度
- レポート・試験・授業中の発表には文章で表現するものを多く取り入れ、言語力の向上に努める。

1. 学年学習到達目標

- ①幅広い活動を通して、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な基礎的技能を身につける。
- ②音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- ③主体的・協働的に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむ態度を養う。

2. 授業の進め方（授業形態等）

(1)週1.3時間 (2)年間総授業数 45時間 (3)授業形態 一斉(40人)

3. 教科書・副教材

教科書	中学生の音楽1（教育芸術社）中学生の器楽（教育芸術社）
副教材	MY SONG 7訂版（教育芸術社）音楽のハーモニー1年（正進社）

4. 学習計画

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考
1 学 期	4	歌唱（斉唱・合唱）	・発声、プレス、姿勢など歌唱における基礎的な技能を身につける。	10	合唱コンクール
	5	鑑賞（歌曲）	・物語の進行と曲想の変化との関わりを理解し、歌唱表現の特徴やピアノ伴奏の効果を味わう。	2	
	6	楽典	・音符・休符の長さ、音名・階名、拍子など、楽譜における基礎的な内容について理解する。	3	
		鑑賞（バロック音楽）	・ソネットと音楽との関わりを理解し、独奏ヴァイオリンと合奏による表現を味わう。	2	
	7				
2 学 期	9	器楽（箏）	・箏の基礎的な奏法を身につけるとともに、様々な奏法による音色の違いについて理解する。	6	
	10	鑑賞（箏）	・楽曲全体の構成を理解し、箏の多彩な表現を味わう。	1	
		楽典	・リズムなど、楽譜における基礎的な内容について理解する。	2	
	11	創作	・歌詞の内容を生かして表現を工夫するとともに、基礎的な歌唱の技能を向上させる。	2	
		歌唱（斉唱・合唱）		8	
3 学 期	12				
	1	楽典	・楽譜における諸記号などについて理解する。	1	
	2	歌唱（斉唱・合唱）	・声部の役割や曲の雰囲気の変化を理解し、クラスメイトと協力しながら表情豊かな表現をめざす。	5	
			・アルトリコーダーの基礎的な奏法を身につける。		
	3	器楽（リコーダー）		3	

5. 評価について

- ①出席状況 ②授業での取り組み ③実技発表、実技テスト
- ④定期考査 ⑤感想文 ⑥提出物

令和5年度年間授業計画 教科 美術 担当者

対象 中学1学年全クラス

1. 学年学習到達目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- (3) 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

2. 授業の進め方（授業形態等）

- (1) 週 1.3時間 (2)年間総授業数 45時間 (3)授業形態 一斉（美術室）

3. 教科書・副教材

教科書	開隆堂「美術1 発見と創造」
副教材	

4. 学習計画

期	月	指導題材名	学習内容	時数	備考
1学期	4	・ネームプレート	・実用的なネームプレートを自分なりにアレンジした作品の制作をする。使う時のイメージをしながら制作することでデザインの本質を追求する。	10	
	5				
	6	・色彩構成		5	
	7	・作家・デザイナー調べ	・作家・デザイナーについて調べ、レポートを作成する。（宿題）	2	
2学期	9	・色彩構成続き	・モンドリアンの目指した「デ・スタイル」を学び、オリジナルの「デ・スタイル」を色彩構成で表現する。	6	
	10	・消しゴムハンコ	・消しゴムでハンコを彫り、年賀状を制作する。	9	
	11	・ペーパーナイフ	・ハndsカルプチャーとしての美、デザインされた美、用の美を追求して美しく、使いやすいペーパーナイフの制作を行う。	3	
	12				
3学期	1	・ペーパーナイフ続き		9	
	2				
	3				

5. 評価について

- ①学んだ知識、技能を活用し作品に表すことができたか。
 - ②課題を踏まえコンセプトを基に発想することができたか。
 - ③主体的に意欲を持って授業に取り組むことができたか。
- ※以上の点を中心に作品、クロッキー帳、ワークシート、授業態度、出欠を基にして評価する。

令和5年度年間授業計画 教科名 保健体育

対象 中学1学年全クラス

1. 学年学習到達目標

- ①各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高め、生活を明るく健全にする態度を身につける。
- ②個人生活における健康・安全に関する事項を理解する。

2. 授業の進め方（授業形態等）

(1)週3時間 (2)年間総授業数 105時間 (3)授業形態 一斉（一部男女別習）

3. 教科書・副教材

教科書	大日本図書 中学校保健体育
副教材	大日本図書 中学校保健体育ノート 1 学研 中学体育実技2023

4. 学習計画 ※発展的内容

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考
1 学 期	4	体づくり運動	体力を高める運動／体ほぐし運動 集団行動／運動と体や心の働き	2 5	体育祭 体力テスト
	5	ダンス 陸上競技①	ソーラン節 短距離走	7 5	
	6	体づくり運動 体づくり運動 保健	体力を高める運動／体ほぐし 新体力テスト ①健康な生活と病気の予防	2 6 2	
	7	水泳	クロール／背泳ぎ	5	
	9	水泳 陸上競技②	クロール／背泳ぎ ハードル走	6 9	
	10	球技①	バドミントン(卓球)	9	
	11	保健	①健康な生活と病気の予防	3	
2 学 期	12	球技②	②心身の発達と心の健康 バスケットボール ソフトボール（ティーボール）	4 8 8	球技大会
	1	陸上競技	長距離走	8	
	2	球技③	バレーボール	6	
	3	保健	②心身の発達と心の健康	4	
	3	球技④	サッカー	6	

5. 評価について(材料・場面・頻度等)

それぞれの観点については、次の内容を考慮して評価する。

- (1) 知識・技能・・・定期考査、学習カード、技能テスト
- (2) 思考・判断・表現・・・定期考査、授業への取り組み、学習カード
- (3) 主体的に学習に取り組む態度・・・出席状況、忘れ物、
授業への取り組み、提出物の状況

1. 学年学習到達目標

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2. 授業の進め方（授業形態等）

(1) 週 1 時間 (2) 年間総授業数 35 時間 (3) 授業形態 一斉 (40人)

3. 教科書・副教材

教科書	新しい 技術・家庭 技術分野 （東京書籍）
副教材	マツゴロウ

4. 学習計画 ※発展的内容

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考
1 学 期	4	技術分野のガイダンス	・ガイダンス ・1～4編で学んでいく内容の確認	2	
	5	4編：情報の技術	1章 情報の技術の原理・法則と仕組み	1 1	
	6				
	7				
2 学 期	9	4編：情報の技術	2章 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決	6	
	10				
	11	1編：材料と加工の技術	2章 材料と加工の技術による問題解決	8	
	12				
3 学 期	1	1編：材料と加工の技術	1章 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み 木材加工実習（マツゴロウ）前半 ・製作準備 ・けがき ・切断	2	
	2			6	
	3				

5. 評価について（材料・場面・頻度等）

- ・定期考査、実習、実験、レポート、プリント、ノート、発表、平常点等総合的に評価する。

1. 学年学習到達目標

- ① 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・共同して家庭生活を営む必要があることに気づくこと。
- ② 衣服の適切な選択や着用、衣服の計画的な活用、日常着の手入れ、製作に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、衣生活の課題を解決する力を養い、衣生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。
- ③ 家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して住生活の課題を解決する力を養い、住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。

2. 授業の進め方（授業形態等）

（1） 週 1 時間 （2）年間総授業数 35 時間 （3） 授業形態 一斉（40 人）

3. 教科書・副教材

教科書	技術・家庭（家庭分野）（開隆堂）
副教材	家庭科ワークノート（地域教材社）、布・ミシン糸のセット（スタイリッシュ）

4. 学習計画

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考
1 学期	4	A 家族・家庭生活	オリエンテーション	1	
	5		A（1）自分の成長と家族・家庭生活		
	6	B 衣食住の生活		1 2	
	7	衣生活	B（5）生活を豊かにするための布を用いた製作		
2 学期	9		（4）衣服の選択と手入れ	1 4	
	10		（7）衣生活についての課題と実践		
	11				
	12	住生活	（6）住居の機能と安全な住まい方		
3 学期	1		（7）住生活についての課題と実践	8	
	2				
	3				

5. 評価について

定期考査、実習、発表、提出物等から総合的に評価する。

令和5年度年間授業計画 英語科 1年

対象 中学1学年全クラス

1. 学年学習到達目標

- ①教科書などの基本的な英文を聞き手が理解できる正しい発音で音読し、また内容をプレゼンテーションできる。
- ②スピーチ、スキットなどで初歩的な英語を用いて、自分の考えなどを話して伝えることができる。
- ③簡単な自己紹介などで、まとまった内容を英語で書くことができる。
- ④初歩的な（英検4、5級程度）英語を聞き取ることができる。
- ⑤初歩的な（英検4、5級程度）語句や文を読んで理解できる。

2. 授業の進め方（授業形態等）

- (1)週4時間 (2)年間総授業数 140 時間 (3)授業形態 一斉(週1時間:日本人 Team Teaching/週1時間:ALT との TT)

3. 教科書・副教材

教科書	NEW HORIZON English Course 1（東京書籍）
副教材	Basic Grammar in Use（Cambridge） Let's Enjoy BINGO1(浜島書店) 英語のたて×よこドリル1(正進社)

4. 学習計画 *発展的内容

期	月	指導単元名	学習内容	TT(ALT) Lesson	時数
1 学 期	4	Orientation Unit 0	あいさつ、身近な英語 [英語の学習方法・言語活動の基本] Welcome to Junior High School [Alphabet,音, Classroom English]	Orientation 英語の語彙・音声	52
	5	Unit 1	New School, New Friends [be 動詞 / 一般動詞 / can]	Speech 1 「自己紹介」	
	6	Unit 2	Our New Teacher [This[That] is / He[She] is / What / Who/ How ?]	Skit 1 「基礎英語より①」	
	7	Unit 3	Club Activities [Where ?/ When ?/ I want to / How many ?]	Interview 1 「自己紹介」	
	7	Unit 4 Reading Plus	Friends in New Zealand [命令文 / What time? / What+名詞 ?] 英文多読 *		
2 学 期	9	Unit 5	A Japanese Summer Festival [前置詞 / 動名詞 / 不規則動詞の過去形]	Skit 2 「基礎英語より②」	60
	10	Unit 6	A Speech about My Brother [三人称単数現在形]	Speech 2 「人の紹介」	
	11	Unit 7	Foreign Artist in Japan [代名詞 / Which ? / Whose ?]	Skit 3 「レストラン」	
	11	Unit 8	A Surprise Party [現在進行形 / 感嘆文]	Interview 2 「家族紹介」	
	12	Unit 9	Think Globally, Act Locally [want to / S V(look) C]		
	12	Let's Read 1 Reading Plus	Let's Climb Mt. Fuji 英文多読		
3 学 期	1	Unit 10	Winter Vacation [過去形]	Speech 4 「新年の抱負」	28
	2	Unit 11	This Year's Memories [be動詞の過去形 / 過去進行形]	Skit 4 「冬休みの思い出」	
	2	Let's Read 2	City Lights	Interview 3 「一年間の思い出」	
	3	Orientation	英文多読、一年間の振り返り [英語の学習方法]		

5. 評価について（評価基準と材料・場面・頻度等）

I 知識・技能（定期考査、音読テスト、Shadowing、Presentation、Skit、面接テスト、ライティング課題）

- ① 語いやフレーズを理解し、適切な表現として使用することができる。
- ② 正しい語順や文型、語法などの文法事項をふまえて、適切な表現にすることができる。
- ③ 必要な情報を、正確に聞き取ることができる。
- ④ ある分量の英文を読んで、必要な情報を正確に読み取ることができる。
- ⑤ 間違いやすい音に留意して、正確な発音やアクセントを用いて教科書本文の音読ができる。
- ⑥ 相手に配慮しながら、コミュニケーションを継続することができる。
- ⑦ 既習の文型や語法、適切な文章形式をふまえて、英文を正確に書くことができる。

II 思考力・判断力・表現力（定期考査、Presentation、Speech、Skit、面接テスト、Discussion、Debate、ライティング課題）

- ⑧ 話された内容の概要・要旨を聞き取ることができる。
- ⑨ ある分量の英文を読んで、その大意を読み取ることができる。
- ⑩ ある分量の英文を読んで、その大意から次の展開を推測することができる。
- ⑪ ある分量を読んで、論理展開や順序を読み取ることができる。
- ⑫ 英語の音声と内容を伝えることを意識して、音読やプレゼンテーションをすることができる。
- ⑬ 聞き手を説得できるように論理的に自分の意見を述べるすることができる。
- ⑭ あるものの描写や詳細を説明することができる。
- ⑮ 相手が話したいことに対して質問をしたり、答えたりしながら議論を継続することができる。
- ⑯ 目的や場面に応じて適切な表現を用いて書くことができる。
- ⑰ 順序や論理展開を意識してまとまった分量の文章を書くことができる。

III 主体的な学習に取り組む態度（授業での取り組み、課題提出、自己評価・自己分析など）

- ⑱ 英語で進められる授業に参加し、言語活動に積極的に参加することができる。
- ⑲ 文化・歴史・社会等の課題について積極的に考え、自らの生き方の向上に取り組むことができる。
- ⑳ 自己の学習を振り返り、常に改善・向上の態度を持つことができる。

※ 中高6年間共通の評価規準のため、⑩⑪⑰は中学では見取らない。